岩手医科大学研究データポリシー（解説）

（趣旨）

岩手医科大学（以下「本学」という。）は、「誠の人間を育成する」ことを基本理念とし、「まず人としての教養を高め、十分な知識と技術とを修得させ、進んでは専門の学理を究め、実地修練を積み、出では力を厚生済民に尽くし、入っては真摯な学者として、斯道の進歩発展に貢献する」ことを建学の精神に掲げ、教育研究活動に取り組んでいる。

研究活動において研究データを適切に管理することは優れた研究を行う上で必要不可欠であり、また、研究データは学術や社会の発展に必須の知の基盤の一つである。

このことから、本学は、研究データを適切に管理し、その公開等を通じて利活用を促進することにより、学術研究の発展に寄与し、研究成果を社会に還元することを目的として、研究データの管理・公開及び利活用に関するポリシーを以下のように定める。

（1）本ポリシー制定の背景と目的

研究活動におけるデータの重要性は増大しており、学術研究をさらに発展させ、その成果を活用して社会を発展させるためには、高い学術的意義を有する研究データの利活用を促進することが不可欠である。そこで、本学及び本学の研究者が、将来においてよりよい研究を行うことを確保するため、本学における研究データの管理及び公開に関する基本方針を示し、研究データの利活用の促進を図るとともに、本学の研究データの価値を守り、本学及び本学の研究者の将来における研究の基盤を確保することを目的として、本ポリシーを定めることとした。

（2）研究データの管理・公開に関する一般的留意事項

1）法令、契約、本学が定める規程等の遵守

研究者は、研究データの管理及び公開にあたっては、関連法令、国や国際的機関等が定める研究倫理指針、各研究分野における倫理的要件、研究契約、本学が定める規程その他これに準ずる定めを遵守する必要がある。

例えば、第三者が権利や法的利益を有している場合（個人情報や知的財産にあたる研究データ等）や、安全保障の観点からその流通が規制されている場合（外国為替及び外国貿易法（以下、外為法）の輸出規制対象情報等）には、適用される法令等を遵守する必要がある。また、共同研究契約や外部資金等に基づく研究において締結される契約等において、管理及び公開等に関して条件や制限が課されている場合には、法令や契約に反することのないように留意しなければならない。

2）オープン・アンド・クローズ戦略に基づくオープンサイエンスの実現

オープン・アンド・クローズ戦略とは、「データの特性から公開すべきもの（オープン）と保護するもの（クローズ）を分別して公開する戦略」である。オープンサイエンスとは、単に多くの研究データを共有あるいは公開することを意味するものではない。

研究者は、研究データの利活用の促進や研究のさらなる発展のために、研究データの公開に先んじて、まずは公開すべきデータと保護すべきデータとを適切に区別しなければならない。特に、産学連携活動等の場面においては、本学の知的財産を適切に保護することが重要となることから、この区別を慎重に

行わなければならない。

3) 研究データの特性に応じた管理及び公開の必要性

「研究データ」に含まれる情報は多種多様である。そのため、本ポリシーに基づく研究データの管理及び公開にあたっては、各部署等において、その研究分野の特性や研究データの性質、研究体制等を考慮し、本ポリシーに即した具体的なガイドライン等を作成することが望ましい。

(研究データの定義)

1. 本ポリシーが対象とする研究データは、本学における研究活動の過程で研究者によって収集又は生成された情報を指し、デジタル・アナログを問わない。

(1) 本ポリシーにおける「研究データ」には、以下のものが含まれる。なお、研究データの記録媒体（デジタル・アナログ）は問わない。

- ① 研究素材として収集又は生成された一次データ（測定データ、画像情報等）
- ② 一次データ等を分析、処理して生成された情報（加工データや解析データ等）
- ③ 上記データの収集や生成の段階で作成された記録（実験ノート、質問票等）に記載された情報
- ④ 上記のデータを用いて作成された研究成果（論文や講演資料等への使用有無に関わらない）に記載された情報
- ⑤ 研究に用いられた有体物等（試料、標本等）に蓄積されている情報
- ⑥ その他研究活動に用いることが予定されている情報及び研究活動に用いられた情報

(2) 「本学における研究活動」とは、本学の資源（施設・設備等）を用いて実施される研究活動をいう。他の大学、民間企業、その他の機関に所属する者が、本学の資源を使用して行う研究活動については、その研究活動において収集・生成される研究データの管理等に関し、契約等に別段の定めがある場合には、その定めに従う。

(研究者の定義)

2. 本ポリシーにおける研究者とは、本学の教職員・学生等で、本学における研究に携わる全ての者とする。

本学における研究に携わる全ての者とは、「岩手医科大学における研究活動の不正行為防止に関する規程」第2条第1項ア～ウに定める「研究者等」と同じ範囲である。

(参考)

○岩手医科大学における研究活動の不正行為防止に関する規程

(定義)

第2条 この規程において、「研究者等」とは、本学において研究活動を行う次に掲げる者をいう。

- ア 教職員、学生その他の本学において研究活動に従事する者（非常勤を含む。）
- イ 本学において研究指導を受ける者
- ウ 本学の施設設備を利用する者
- エ アからウまでに掲げる者であった者

(研究者の権利と責務)

3. 本学は、原則として、研究データを収集又は生成した研究者等がその研究データの管理を行う権利と責務を有していることを認める。

本学における研究活動を推進し、よりよい研究成果の創出を促進するためには、研究データの管理方法や公開の可否等について、当該データを利用して研究活動を行っている研究者の判断を尊重することが望ましい。そこで、特段の定め等がある場合を除き、原則として、研究者がその管理を行う権利を有することを明示した。

(研究データの管理)

4. 研究者は、法令及び本学の諸規程ならびに倫理的要件に従って研究データを管理する。

研究者は、研究データの管理については、前提として、本学の規程や国内法令・指針・通達等、研究倫理や知的財産権の保護などを遵守する必要がある。特に、個人情報、外為法に基づき安全保障輸出管理の対象となっている技術情報、及び契約等において秘密管理等が要求されている情報等については、慎重かつ厳格な管理が要求され、それらの破棄についても、適切な態様で行われなければならない。また、共同研究契約や外部資金等における研究契約等において、管理に関する権利と責任の所在が定められている場合には、当該契約の定めに従って研究データの管理が行われなければならない。

(参考)

○岩手医科大学における研究活動の不正行為防止に関する規程

(研究者等、監督者の責務)

第5条 1～3 (略)

4 研究者等は、原則として次に掲げる期間、研究データを保存し、適切に管理のうえ、開示の必要性及び相当性が認められる場合に開示しなければならない。ただし、法令や共同研究等における契約等により研究データの保存期間が次に掲げる期間より長く定められているときは、その定めに従うものとする。(以下、略)

(研究データの公開)

5. 研究者は、自らが管理する研究データについて、その価値や研究分野の特性を踏まえ、その法的及び倫理的要件に従って、可能な限り社会に研究データを公開し、その利活用を促進する。

研究者は、可能な限り学術的意義を有する研究データを社会に公開し、その利活用の促進に努めるため、自らが管理する研究データについて、法令等の定め範囲内及びオープン・アンド・クローズ戦略に反することのない範囲内で、その公開の可否、条件、方法等について決定する。

(大学としての責務)

6. 本学は、研究データの管理、公開及び利活用を支援する環境を整備するものとする。

本学が研究者に提供する環境として、以下が考えられる。

- (1) 研究データの管理に係る情報の収集及びその提供
- (2) 研究データを管理するためのデジタルプラットフォーム及びストレージ基盤の提供
- (3) 研究データを公開するためのリポジトリの提供
- (4) 研究データ利活用のための学内外への周知

(その他)

7. 本ポリシーは、社会や学術状況の変化に応じて適宜見直しを行うものとする。

データ管理・公開・利活用のあり方は、社会・経済システムや学術状況の変化により大きな影響を受けるものであり、また近時、関係法令の改正等も頻繁に行われていることから、本ポリシーについては、適時に見直しを図ることが必要である。